

zhú lǐ guǎn wáng wéi  
竹里馆 王维

dú zuò yōu huáng lǐ  
独坐幽篁里

tán qín fù cháng xiào  
弹琴复长啸

shēn lín rén bù zhī  
深林人不知

míng yuè lái xiāng zhào  
明月来相照

ひと ゆうこう うち さ  
独り幽篁の裏に坐し

だんきん ま ちょうしやう  
弹琴復た長 嘯

しんりん ひと し  
深林 人知らず

めいげつ き あいて  
明月来たりて相照らす

yuàn qíng lǐ bái  
怨 情 李白

měi rén juǎn zhū lián  
美人卷珠帘

shēn zuò pín é méi  
深坐颦蛾眉

dàn jiàn lèi hén shī  
但见泪痕湿

bù zhī xīn hèn shuí  
不知心恨谁

びじんしゆれん ま  
美人珠簾を捲き

ふか ざ が び ひそ  
深く坐して蛾眉を颦む

た み るいこん うるお  
但だ見る涙痕の湿うを

し ころ たれ うら  
知らず心に誰をか恨む

jìng yè sī lǐ bái  
静夜思 李白

chuáng qián míng yuè guāng  
床前明月光

yí shì dì shàng shuāng  
疑是地上霜

jǔ tóu wàng míng yuè  
举头望明月

dī tóu sī gù xiāng  
低头思故乡

しょうぜんげつこうあき  
床前月光明らかなり

うたが これ ちじやう しも  
疑うらくは是れ地上の霜かと

こうべ あ めいげつ のぞ  
頭を挙げて明月を望み

こうべ た こきやう おも  
頭を低れて故郷を思う

dú zuò jìng tíng shān lǐ bái  
独坐敬亭山 李白

zhòng niǎo gāo fēi jìn  
众鸟高飞尽

gū yún dú qù xián  
孤云独去闲

xiāng kàn liǎng bú yàn  
相看两不厌

zhǐ yǒu jìng tíng shān  
只有敬亭山

しゅうちやうたか と つ  
衆鳥高く飛んで尽き

こうんひと き のど  
孤雲独り去って閑かなり

あいみ ふた いと  
相看着両つながら厭わず

た けいていざん あ  
只だ敬亭山有るのみ

jiāng xuě liǔ zōng yuán  
江 雪 柳 宗 元

qiān shān niǎo fēi jué  
千 山 鸟 飞 绝

wàn jìng rén zōng miè  
万 径 人 踪 灭

gū zhōu suō lì wēng  
孤 舟 蓑 笠 翁

dú diào hán jiāng xuě  
独 钓 寒 江 雪

せんざんとりと た  
千山鳥飛ぶこと絶え

ばんけいじんしょうめつ  
万径人踪滅す

こしゅうさりゅう おう  
孤舟蓑笠の翁

ひと つ かんこう ゆき  
独り釣る寒江の雪に

dēng yōu zhōu tái chénzǐáng  
登 幽 州 台 陈 子 昂

qián bú jiàn gǔ rén  
前 不 见 古 人

hòu bú jiàn lái zhě  
后 不 见 来 者

sī tiān dì yōu yōu  
思 天 地 悠 悠

dú chuàng rán tì xià  
独 怆 然 涕 下

まえ こじん み  
前に古人を見ず

のち らいしや み  
後に来者を見ず

てんち ゆうゆう おも  
天地の悠々たるを思うて

ひと そうぜん なんだくだ  
独り愴然として涕下る

jiāng nán chūn dù mù  
江 南 春 杜 牧

qiān lǐ yīng tí lǜ yìng hóng  
千 里 莺 啼 绿 映 红

shuǐ cūnshān guō jiǔ qí fēng  
水 村 山 郭 酒 旗 风

nán cháo sì bǎi bā shí sì  
南 朝 四 百 八 十 寺

duō shǎo lóu tái yān yǔ zhōng  
多 少 楼 台 烟 雨 中

せんりりうぐいすな みどりくれない えい  
千里鶯啼きて緑紅に映ず

すいそんさんかくしゆき かぜ  
水村山郭酒旗の風

なんちょうよんひやくはっしんじ  
南朝四百八十寺

たしょう ろうだいえんう うち  
多少の楼台煙雨の中

kè zhōng xíng lǐ bái  
客 中 行 李 白

lán líng měi jiǔ yù jīn xiāng  
兰 陵 美 酒 郁 金 香

yù wǎn chéng lái hǔ pò guāng  
玉 碗 盛 来 琥 珀 光

dàn shǐ zhǔ rén néng zuì kè  
但 使 主 人 能 醉 客

bù zhī hé chù shì tā xiāng  
不 知 何 处 是 他 乡

らんりゅう びしゅうつこんこう  
蘭陵の美酒鬱金香

ぎよくわんも きた こはく ひかり  
玉碗盛り来る琥珀の光

た しゅじん よ かく よ  
但だ主人をして能く客を酔わしめば

し はず いず ところ こ たきょう  
知らず何れの処か是れ他郷なるを

dēngguànuèlóu wángzhīhuàn  
登 鹤 鹊 楼 王 之 涣

bái rì yī shān jìn  
白 日 依 山 尽

huáng hé rù hǎi liú  
黄 河 入 海 流

yù qióng qiān lǐ mù  
欲 穷 千 里 目

gèng shàng yì céng lóu  
更 上 一 层 楼

はくじつやま よ つ  
白日山に依りて尽き

こうがうみ い なが  
黄河海に入りて流る

せん り め きわ ほつ  
千里の目を窮めんと欲して

さら のぼ いっそう ろう  
更に登る一層の楼

huánghèlóusòngmènghàoránzhīguǎnglíng  
黄 鹤 楼 送 孟 浩 然 之 广 陵

libái  
李 白

gù rén xī cí huáng hè lóu  
故 人 西 辞 黄 鹤 楼

yān huā sān yuè xià yáng zhōu  
烟 花 三 月 下 扬 州

gū fān yuǎn yǐng bì kōng jìn  
孤 帆 远 影 碧 空 尽

wéi jiàn cháng jiāng tiān jì liú  
唯 见 长 江 天 际 流

こじんにし こうかくろう じ  
故人西のかた黄鹤楼を辞し

えん か さんがつようしゅう くだ  
烟花三月揚州に下る

こはん えんえいへきくう つ  
孤帆の遠影碧空に尽き

ただ み ちょうこう てんさい なが  
唯だ見る長江の天際に流るるを

shān zhōng dá sú rén lǐ bái  
山 中 答 俗 人 李 白

wèn yú hé yì qī bì shān  
问 余 何 意 栖 碧 山

xiào ér bù dá xīn zì xián  
笑 而 不 答 心 自 闲

táo huā liú shuǐ yǎo rán qù  
桃 花 流 水 窅 然 去

bié yǒu tiān dì fēi rén jiān  
别 有 天 地 非 人 间

われ と なん こころ へきざん す  
余に問う何の意にてか碧山に栖ひと

わろ こた こころ おの しず  
笑うて答えず心は自ずと閑かなり

とう かりゅうすいようぜん き  
桃花流水窅然として去り

べつ てんち ひと よ あらざ あ  
別に天地の人の間には非るもの有り

sòng yuán èr shǐ ān xī wángwéi  
送 元 二 使 安 西 王 维

wèi chéng zhāo yǔ yì qīng chén  
渭 城 朝 雨 浥 轻 尘

kè shè qīng qīng liǔ sè xīn  
客 舍 青 青 柳 色 新

quàn jūn gèng jìn yì bēi jiǔ  
劝 君 更 尽 一 杯 酒

xī chū yáng guān wú gù rén  
西 出 阳 关 无 故 人

いじょう ちょうう けいじん うるお  
渭城の朝雨は軽塵を浥し

かくしやせいせりゅうしよくあら  
客舍青青柳色新たなり

きみ すす さら つ いっばい さけ  
君に劝む更に尽くせ一杯の酒

にし ようかん いづ こじん な  
西のかた陽関を出れば故人無からん

é méi shān yuè gē lǐ bái  
峨眉 山 月 歌 李 白

é méi shān yuè bàn lún qiū  
峨眉 山 月 半 轮 秋

yǐng rù píng qiāng jiāng shuǐ liú  
影 入 平 羌 江 水 流

yè fā qīng xī xiàng sān xiá  
夜 发 清 溪 向 三 峡

sī jūn bú jiàn xià yú zhōu  
思 君 不 见 下 渝 州

が び さんげつはんりん あき  
峨眉山月半輪の秋

かげ へいきょうこうすい い なが  
影は平羌江水に入って流る

よるせいけい はつ さんきょう む  
夜清溪を発して三峡に向こう

きみ おも み ゆしゅう くだ  
君を思えども見えず渝州に下る

fù chóu dù fǔ  
复 愁 杜 甫

wàn guó shàng róng mǎ  
万 国 尚 戎 马

gù yuán jīn ruò hé  
故 园 今 若 何

xī guī xiāng shí shǎo  
昔 归 相 识 少

zǎo yǐ zhàn chǎng duō  
早 已 战 场 多

ばんこくなお じゅう ば  
万国尚お戎馬

こ えんいまい かん  
故園今若何

むかしがえ そうしきま  
昔 帰 り し と き 相 識 少 れ に

はや すで せんじょうおお  
早く己に戦場多かりき

qiū pǔ gē lǐ bái  
秋 浦 歌 李 白

bái fà sān qiān zhàng  
白 发 三 千 丈

yuán chóu sì gè cháng  
缘 愁 似 个 长

bù zhī míng jìng lǐ  
不 知 明 镜 里

hé chù dé qiū shuāng  
何 处 得 秋 霜

はくはつさんぜんじょう  
白髪三千条

うれ よ か ごと なが  
愁いに縁って箇の似く長し

し めいきょう うち  
知らず明鏡の裏

いず ところ しゅうそう え  
何れの処よりか秋霜を得たる

jué jù dù fǔ  
绝 句 杜 甫

jiāng bì niǎo yú bái  
江 碧 鸟 逾 白

shān qīng huā yù rán  
山 青 花 欲 燃

jīn chūn kàn yòu guò  
今 春 看 又 过

hé rì shì guī nián  
何 日 是 归 年

こう みどり とりいよ しろ  
江は碧にして鳥逾いよ白く

やま あお はな も ほつ  
山は青くして花然えんと欲す

こんしゅん ま ま す  
今春看のあたりに又た過ぐ

いず ひ こ きねん  
何れの日は是れ帰年

chūn xiǎo mèng hào rán  
春 晓 孟 浩 然

chūn mián bù jué xiǎo  
春 眠 不 觉 晓

chù chù wén tíniǎo  
处 处 闻 啼 鸟

yè lái fēng yǔ shēng  
夜 来 风 雨 声

huā luò zhī duō shǎo  
花 落 知 多 少

しゅんみんあかつき おぼ  
春 眠 晓 を 覚 えず

しょしよていちよう き  
処 々 啼 鳥 を 聞 く

やらいふうう こえ  
夜 来 風 雨 の 声

はな お し たしょう  
花 落 つ る 事 知 る 多 少

zhōngshānjíshì wáng ān shí  
钟 山 即 事 王 安 石

jiàn shuǐ wú shēng rào zhú liú  
涧 水 无 声 绕 竹 流

zhú xī huā cǎonòng chūn róu  
竹 西 花 草 弄 春 柔

máo yán xiāng duì zuò zhōng rì  
茅 檐 相 对 坐 终 日

yì niǎo bù tí shān gèng yōu  
一 鸟 不 啼 山 更 幽

かんすいこえ な たけ めぐ なが  
涧 水 声 無 く 竹 を 遶 っ て 流 る

ちくせい か そうしゅんじゅう ろう  
竹 西 の 花 草 春 柔 を 弄 す

ぼうえんあいたい ざ しゅうじつ  
茅 檐 相 对 して 坐 す る 事 終 日

いつちよう な やまさら ゆう  
一 鳥 啼 か ず 山 更 に 幽 な り

chūsàicóngjūnxíng wángchānglíng  
出 塞 从 军 行 王 昌 龄

qín shí míng yuè hàn shí guān  
秦 时 明 月 汉 时 关

wàn lǐ cháng zhēng rén wèihuán  
万 里 长 征 人 未 还

dàn shǐ lóng chéngfēijiàngzài  
但 使 龙 城 飞 将 在

bú jiào hú mǎ dù yīn shān  
不 教 胡 马 度 阴 山

しんじ めいげつかんじ かん  
秦 時 の 明 月 漢 時 の 関

ばんり ちようせい ひといま かえ  
万 里 長 征 して 人 未 だ 還 ら ず

た りゅうじょう ひしょう あ  
但 だ 龍 城 の 飛 将 を して 在 ら し め ば

こば して いんざん わた  
胡 馬 を して 陰 山 を 度 ら し め ず

chūn xíng jì xìng lǐ huá  
春 行 寄 兴 李 华

yí yáng chéng xiàcǎo qī qī  
宜 阳 城 下 草 萋 萋

jiàn shuǐdōngliú fùxiàngxī  
涧 水 东 流 复 向 西

fāng shù wú rén huā zì luò  
芳 树 无 人 花 自 落

chūnshānyí lù niǎokōng tí  
春 山 一 路 鸟 空 啼

ぎようじょう か くさせいせい  
宜 陽 城 下 草 萋 萋 たり

かんすいとうりゅう ま にし むこ  
涧 水 東 流 して 復 た 西 に 向 う

ほうじゅひと な はなのおのずか お  
芳 樹 人 無 く 花 自 ら 落 ち

しゅんざんいち ろ とりむな な  
春 山 一 路 鳥 空 し く 啼 く

chú yè zuò gāo shì  
除夜作 高适

lǚ guǎn hán dēng dú bù mián  
旅馆寒灯独不眠

kè xīn hé shì zhuǎn qī rán  
客心何事转凄然

gù xiāng jīn yè sī qiān lǐ  
故乡今夜思千里

shuāng bìn míng zhāo yòu yì nián  
霜鬓明朝又一年

りょかん かんとうひと ねむ  
旅館の寒灯独り眠らず  
かくしんなにごと うた せいぜん  
客心何事ぞ 転た凄然  
こきょうこん や せんり おも  
故郷今夜千里を思う  
そうびんみょうちょう いちねん  
霜鬓明朝また一年

sì shí gē gù kǎi zhī  
四时歌 顾恺之

chūn shuǐ mǎn sì zé  
春水满四泽

xià yún duō qí fēng  
夏云多奇峰

qiū yuè yáng míng huī  
秋月扬明辉

dōng líng xiù gū sōng  
冬岭秀孤松

しゅんすい し たく み  
春水四沢に満ち  
か うん き ほうおお  
夏雲奇峰多し  
しゅうげつめい き あ  
秋月明輝を揚げ  
とうれい こ しょうひい  
冬嶺弧松秀ず

liáng zhōu cí wáng hàn  
凉州词 王翰

pú táo měi jiǔ yè guāng bēi  
葡萄美酒夜光杯

yù yǐn pí pá mǎ shàng cuī  
欲饮琵琶马上催

zuì wò shā chǎng jūn mò xiào  
醉卧沙场君莫笑

gǔ lái zhēng zhàn jǐ rén huí  
古来征战几人回

ぶどう びしゅ や こう はい  
葡萄の美酒夜光の杯  
の びわ ぼ じょう もよお  
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す  
よ さじょう ふ きみわら  
酔うて沙上に臥すとも君笑うことなけれ  
こらいせいせん いくにん かえ  
古来征戦 幾人が回る

zǎo fā bái dì chéng lǐ bái  
早发白帝城 李白

zhāo cí bái dì cǎi yún jiān  
朝辞白帝彩云间

qiān lǐ jiāng líng yī rì huán  
千里江陵一日还

liǎng àn yuán shēng tí bú zhù  
两岸猿声啼不住

qīng zhōu yǐ guò wàn chóng shān  
轻舟已过万重山

あした じ はくていさいうん かん  
朝に辞す白帝彩雲の間  
せんり こうりょういちじつ かえ  
千里の江陵一日にして還る  
りょうがん えんせい な や  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
けいしゅうすで す ばんちょう やま  
輕舟己に過ぐ万重の山

féng rù jīng shǐ cén chēn  
逢入京使岑参

gù yuán dōng wàng lù màn màn  
故园东望路漫漫

shuāng xiù lóng zhōng lèi bù gān  
双袖龙钟泪不干

mǎ shàng xiāng féng wú zhǐ bǐ  
马上相逢无纸笔

píng jūn chuán yǔ bào píng ān  
凭君传语报平安

こうえんとうぼう みちまんまん  
故園東望すれば路漫々たり

そうしゅうりょうしょう なみだかわ  
双袖竜鐘として涙乾かず

ばじょうあいお しひつな  
馬上相逢うて紙筆無し

きみよ でんご へいあん ほう  
君に憑って伝語し平安を報ぜん

jiǔyuèjiǔrìyìshāndōngxiōngdì  
九月九日忆山东兄弟

wángwéi  
王维

dú zài yì xiāng wéi yì kè  
独在异乡为异客

měi féng jiā jié bèi sī qīn  
每逢佳节倍思亲

yáo zhīxiōng dì dēng gāo chù  
遥知兄弟登高处

biàn chā zhū yú shǎo yì rén  
遍插茱萸少一人

ひと いきょう いかく な  
独り異郷にあつて異客と為り

かせつ あごとます しん おも  
佳節に逢う毎に倍ます親を思う

はる し けいていたか のぼ ところ  
遥かに知る兄弟高きに登る処

あま しゅゆ さ いちにん か  
遍ねく茱萸を挿して一人を少かんことを

fúrónglósòngxīnjiàn  
芙蓉楼送辛渐

wángchānglíng  
王昌龄

hán yǔ lián jiāng yè rù wú  
寒雨连江夜入吴

píngmíngsòng kè chǔshān gū  
平明送客楚山孤

luòyángqīn yǒu rú xiāngwèn  
洛阳亲友如相问

yí piàn bīng xīn zài yù hú  
一片冰心在玉壶

かんうこう つら よるご い  
寒雨江に連なって夜呉に入る

へいめいかく おく そざんこ  
平明客を送れば楚山孤なり

らくよう しんゆうも あいと  
洛陽の親友如し相問わば

いっぺん ひょうしんぎよくこ あ  
一片の氷心玉壺に在り

qiū fēng yǐn liú yǔ xī  
秋风引刘禹锡

hé chù qiū fēng zhì  
何处秋风至

xiāo xiāo sòng yàn qún  
萧萧送雁群

zhāo lái rù tíng shù  
朝来入庭树

gū kè zuì xiān wén  
孤客最先闻

いず ところ しゅうふういた  
何れの処よりか秋風至る

しょうしょう がんぐん おく  
蕭蕭として雁群を送る

ちょうらいていじゆ い  
朝来庭樹に入り

こかくもつと さき き  
孤客最も先に聞く

ǒu chéng zhū xī  
偶 成 朱 熹

shào nián yì lǎo xué nán chéng  
少 年 易 老 学 难 成

yí cùn guāng yīn bù kě qīng  
一 寸 光 阴 不 可 轻

wèi jué chí táng chūn cǎo mèng  
未 觉 池 塘 春 草 梦

jiē qián wú yè yǐ qiū shēng  
阶 前 梧 叶 已 秋 声

しょうねん お やす がく な がた  
少 年 老 易 学 成 難 易  
いっすん こういんかる  
一 寸 の 光 陰 軽 ん ず べ か ら ず  
いま さ ち どうしゅんそう ゆめ  
未 だ 覚 め ず 池 塘 春 草 の 夢  
かいぜん ごようすで しゅうせい  
階 前 の 梧 葉 已 に 秋 声

fēng qiáo yè bó zhāng jì  
枫 桥 夜 泊 张 继

yuè luò wū tí shuāng mǎn tiān  
月 落 乌 啼 霜 满 天

jiāng fēng yú huǒ duì chóu mián  
江 枫 渔 火 对 愁 眠

gū sū chéng wài hán shān sì  
姑 苏 城 外 寒 山 寺

yè bàn zhōng shēng dào kè chuán  
夜 半 钟 声 到 客 船

つきお からすな しもてん み  
月 落 ち 烏 啼 いて 霜 天 に 満 つ  
こうふうぎよ か しゅうみん たい  
江 枫 渔 火 愁 眠 に 对 ず  
こ そ じょうがい かんざん じ  
姑 蘇 城 外 の 寒 山 寺  
やはん しょうせいかくせん いた  
夜 半 の 鐘 声 客 船 に 至 る

chūn yè sū shì  
春 夜 苏 轼

chūn xiāo yí kè zhí qiān jīn  
春 宵 一 刻 值 千 金

huā yǒu qīng xiāng yuè yǒu yīn  
花 有 清 香 月 有 阴

gē guǎn lóu tái shēng xì xì  
歌 管 楼 台 声 细 细

qiū qiān yuàn luò yè chén chén  
秋 千 院 落 夜 沉 沉

しゅんしょういつこくあたいせんきん  
春 宵 一 刻 值 千 金  
はな せいこう あ つき かげ あ  
花 に 清 香 有 り 月 に 陰 有 り  
か かんろうだい こえさいさい  
歌 管 楼 台 声 细 细  
しゅうせんいんらく よるちんちん  
鞦 韆 院 落 夜 沈 沈

xīn jià niáng wáng jiàn  
新 嫁 娘 王 建

sān rì rù chú xià  
三 日 入 厨 下

xǐ shǒu zuò gēng tāng  
洗 手 作 羹 汤

wèi ān gū shí xìng  
未 谙 姑 食 性

xiān qiǎn xiǎo gū cháng  
先 遣 小 姑 尝

さんじつちゅう か い  
三 日 厨 下 に 入 り  
て あら こうとう つく  
手 を 洗 っ て 羹 湯 を 作 る  
いま こ しょくせい そら  
未 だ 姑 の 食 性 を 諳 ん ぜ ず  
ま ず しょうこ な  
ま ず 小 姑 を し て 嘗 め し む



guān shān yuè chǔ guāng yì  
关 山 月 储 光 义

yí yàn guò lián yíng  
一 雁 过 连 营

fán shuāng fù gǔ chéng  
繁 霜 覆 古 城

hú jiǎ zài hé chù  
胡 笳 在 何 处

bàn yè qǐ biān shēng  
半 夜 起 边 声

いちがんれんえい す  
一雁連營を過ぎ

はんそう こじょう おお  
繁霜古城を覆う

こ か ところ あ  
胡笳いずれの処にか在る

はん や へんせい おこ  
半夜 辺声を起す

sòng zhū dà rù qín mèng hào rán  
送 朱 大 入 秦 孟 浩 然

yóu rén wǔ líng qù  
游 人 五 陵 去

bǎo jiàn zhí qiān jīn  
宝 剑 值 千 金

fēn shǒu tuō xiāng zèng  
分 手 脱 相 赠

píng shēng yí piàn xīn  
平 生 一 片 心

ゆうじん ごりょう き  
遊人五陵に去る

ほうけんあたいせんきん  
宝剑值千金

て わ だつ あいおく  
手を分かつとき脱して相贈る

へいぜいいつぺん ころ  
平生一片の心

sòng dù shí sì zhī jiāng nán  
送 杜 十 四 之 江 南

mèng hào rán  
孟 浩 然

jīng wú xiāng jiē shuǐ wéi xiāng  
荆 吴 相 接 水 为 乡

jūn qù chūn jiāng zhèng mǐ máng  
君 去 春 江 正 淼 茫

rì mù zhēng fān hé chù bó  
日 暮 征 帆 何 处 泊

tiān yá yí wàng duàn rén cháng  
天 涯 一 望 断 人 肠

けい ご あいせつ みず きょう な  
荆吴相接して水を郷と為すも

きみ さ しゅんこうまさ びょうぼう  
君去って春江正に淼茫たり

にちぼ こしゅういづ ところ やど  
日暮孤舟何れの処にか泊る

てんがいいちぼう ひと はらわた た  
天涯一望 人の腸を断つ

zá shī wáng wéi  
杂 诗 王 维

yǐ jiàn hán méi fā  
已 见 寒 梅 发

fù wén tí niǎo shēng  
复 闻 啼 鸟 声

xīn xīn shì chūn cǎo  
心 心 视 春 草

wèi xiàng yù jiē shēng  
畏 向 玉 阶 生

すで かんばい ひら み  
已に寒梅の発くを見

また ていちょう こえ き  
復た啼鳥の声を聞く

しんしん しゅんそう み  
心心に春草を視ては

ぎょうかい むか しょう おそ  
玉階に向って生ずるを畏る

yuán rì wáng ān shí  
元 日 王 安 石

bào zhú shēng zhōng yí suì chú  
爆 竹 声 中 一 岁 除

chūn fēng sòng nuǎn rù tú sū  
春 风 送 暖 入 屠 苏

qiān mén wàn hù tóng tóng rì  
千 门 万 户 瞳 瞳 日

zǒng bǎ xīn táo huàn jiù fú  
总 把 新 桃 换 旧 符

ばくちく せいちゅういつさいつ  
爆竹の声中一歳除き

しゅんぷうだん おく と そ い  
春風暖を送って屠蘇に入る

せんもんばん こうとう ひ  
千門万户瞳瞳たる日

すべてしんとう と きゅうふ か  
総て新桃を把って旧符に換う

shān xíng dù mù  
山 行 杜 牧

yuǎnshàng hánshān shí jìng xiá  
远 上 寒 山 石 径 斜

bái yún shēng chù yǒu rén jiā  
白 云 生 处 有 人 家

tíng chē zuò ài fēng lín wǎn  
停 车 坐 爱 枫 林 晚

shuāng yè hóng yú èr yuè huā  
霜 叶 红 于 二 月 花

とお かんざん のぼ せつけいなな  
遠く寒山に上れば石径斜めなり

はくうんしょう ところじん か あ  
白雲生ずる処人家有り

くるま とど そぞろ あい ふうりん くれ  
車を停めて坐到愛す楓林の晩

そうよう にがつ はな くれなひ  
霜葉は二月の花よりも紅なり

quàn jiǔ yú wǔ líng  
劝 酒 于 武 陵

quàn jūn jīn qū zhī  
劝 君 金 屈 卮

mǎn zhuó bù xū cí  
满 酌 不 须 辞

huā fā duō fēng yǔ  
花 发 多 风 雨

rén shēng zú bié lí  
人 生 足 别 离

きみ すす きんくつ し  
君に劝む金屈卮

まんしゃくじ もち  
满酌辞するを須いず

はなひら ふう う おお  
花発いて風雨多し

じんせいべつり た  
人生別離足る

lù chái wáng wéi  
鹿 柴 王 维

kōng shān bú jiàn rén  
空 山 不 见 人

dàn wén rén yǔ xiǎng  
但 闻 人 语 响

fǎn jǐng rù shēn lín  
返 景 入 深 林

fù zhào qīng tái shàng  
复 照 青 苔 上

くうざん ひと み  
空山 人を見ず

た じん ご ひび き  
但だ人語の響きを聞く

へんけいしんりん い  
返景深林に入り

また せいたい うえ て  
復た青苔の上を照らす

shānzhōngyǔyōurénduìzhuó libái  
山 中 与 幽 人 对 酌 李 白

liǎng rén duì zhuó shān huā kāi  
两 人 对 酌 山 花 开

yì bēi yì bēi yòu fù yì bēi  
一 杯 一 杯 又 复 一 杯

wǒ zuì yù mián jūn qīng qiě qù  
我 醉 欲 眠 君 卿 且 去

míng zhāo yǒu yì bào qín lái  
明 朝 有 意 抱 琴 来

りょうじんたいしやく さん か ひら  
両 人 对 酌 ずれば山花開く

いっばい いっばい いっばい  
一 杯 一 杯 また 一 杯

われ よ ねむ ほつ きみ しば き  
我 酔 う て 眠 ら んと 欲 す 君 よ 且 ら く 去 れ

みょうちょう い あ こと だ き  
明 朝 意 有 ら ば 琴 を 抱 いて 来 た れ

zhào jìng jiàn bái fà zhāng jiǔ líng  
照 镜 见 白 发 张 九 龄

sù xī qīng yún zhì  
宿 昔 青 云 志

cuō tuó bái fà nián  
蹉 跎 白 发 年

shuí zhī míng jìng lǐ  
谁 知 明 镜 里

xíng yǐng zì xiāng lián  
形 影 自 相 怜

しゆくせきせいうん ころろざし  
宿 昔 青 雲 の 志

さ た ほくはつ とし  
蹉 跎 たり 白 髪 の 年

たれ し めいきょう うち  
誰 か 知 ら ん 明 鏡 の 裏

けいえいおのずか あいあわ  
形 影 自 ら 相 隣 れ ま ん と は

dōng lán lí huā sū dōng pō  
东 栏 梨 花 苏 东 坡

lí huā dàn bái liǔ shēn qīng  
梨 花 淡 白 柳 深 青

liǔ xù fēi shí huā mǎn chéng  
柳 絮 飞 时 花 满 城

chóu chàng dōng lán yì zhū xuě  
惆 怅 东 栏 一 株 雪

rén shēng kàn dé jǐ qīng míng  
人 生 看 得 几 清 明

り か たんぱくやなぎ しんせい  
梨 花 は 淡 白 柳 は 深 青

りゅうじょと はなしろ み つ  
柳 絮 飛 ぶ と き 花 城 に 満 つ

ちゅうちょう とうらんいつしゅ ゆき  
惆 怅 す 東 欄 一 株 の 雪

じんせい み う いくせいめい  
人 生 看 得 る は 幾 清 明 ぞ

jīng shī dé jiā shū yuán kǎi  
京 师 得 家 书 袁 凯

jiāng shuǐ sān qiān lǐ  
江 水 三 千 里

jiā shū shí wǔ háng  
家 书 十 五 行

háng háng wú bié yǔ  
行 行 无 别 语

zhǐ dào zǎo guī xiāng  
只 道 早 归 乡

こうすいさんせん り  
江 水 三 千 里

かしょじゅうごぎょう  
家 書 十 五 行

ぎょうぎょうべつ ご な  
行 行 別 語 無 く

ただい はや きょう かえ  
只 道 う 早 く 郷 に 帰 れ と

nǐ sòng bié wáng yáo xiāng  
拟 送 别 王 瑶 湘

gū zhōu mù guī qù  
孤 舟 暮 归 去

bié lù jiāng nán shù  
别 路 江 南 树

yān wài yǒu zhōng shēng  
烟 外 有 钟 声

gù rén zài hé chù  
故 人 在 何 处

こしゅうく かえ さ  
孤 舟 暮 れ に 帰 り 去 る  
べつろ こうなん き  
别 路 江 南 の 樹  
えんが いしょうせい あ  
煙 外 鐘 声 有 り  
こじんいず こ あ  
故 人 何 処 に 在 る

dù jiāng wén mò  
渡 江 文 墨

qīng shān rú gù rén  
青 山 如 故 人

jiāng shuǐ sì měi jiǔ  
江 水 似 美 酒

jīn rì chóng xiāng féng  
今 日 重 相 逢

bǎ jiǔ duì liáng yǒu  
把 酒 对 良 友

せいざん こじん ごと  
青 山 故 人 の 如 く  
こうすい びしゅ に  
江 水 美 酒 に 似 たり  
きょうかさ あい あ  
今 日 重 ね て 相 逢 う  
さけ と りょうゆう たい  
酒 を 把 っ て 良 友 に 対 す

péizúshūxíngbùshìlángyè jízhōngshūjiǎshèrén  
陪 族 叔 刑 部 侍 郎 晔 及 中 书 贾 舍 人  
zhìyóudòngtíng libái  
至 游 洞 庭 李 白

dòng tíng xī wàng chǔ jiāng fēn  
洞 庭 西 望 楚 江 分

shuǐ jìn nán tiān bú jiàn yún  
水 尽 南 天 不 见 云

rì luò cháng shā qiū sè yuǎn  
日 落 长 沙 秋 色 远

bù zhī hé chù diào xiāng jūn  
不 知 何 处 吊 湘 君

どうていにし のぞ そこうわ  
洞 庭 西 に 望 め ば 楚 江 分 かる  
みずつ なんてん くも み  
水 尽 きて 南 天 に 雲 を 見 ず  
ひ お ちょう さしゅうしょくとお  
日 落 ち て 長 沙 秋 色 遠 し  
し いざ ところ しょうくん とむろ  
知 ら ず 何 れ の 処 に か 湘 君 を 吊 う

qiū yuè chéng hào  
秋 月 程 颢

qīng xī liú guò bì shān tóu  
清 溪 流 过 碧 山 头

kōng shuǐ chéng xiān yí sè qiū  
空 水 澄 鲜 一 色 秋

gé duàn hóng chén sān shí lǐ  
隔 断 红 尘 三 十 里

bái yún huáng yè gòng yōu yōu  
白 云 黄 叶 共 悠 悠

せいけいなが す へきざん ほとり  
清 溪 流 れ 過 ぐ 碧 山 の 頭  
くうすい ちょうせん いっしきあき  
空 水 澄 鲜 一 色 秋 な り  
こうじん かくだん さんじゅうり  
紅 塵 を 隔 断 す 三 十 里  
はくうんこうよう ゆうゆう  
白 雲 黄 葉 と と も に 悠 々

qiūyè jìqiū èrshí èryuánwài  
秋夜寄邱二十二员外

wéiyìngwù  
韦应物

huái jūn shǔ qiū yè  
怀君属秋夜

sàn bù yǒng liáng tiān  
散步咏凉天

shān kōng sōng zǐ luò  
山空松子落

yōu rén yīng wèi mián  
幽人应未眠

きみ おもう しゅうや ぞく  
君を思うは秋夜に属し

さんぽ りょうてん せい  
散歩して凉天に詠ず

やまむな しょうし お  
山空しうして松子落つ

ゆうじんまさ いま ねむ  
幽人応に未だ眠らざるべし

yǒng shǐ gāo shì  
咏史 高适

shàng yǒu tí páo zèng  
尚有绨袍赠

yīng lián fàn shū hán  
应怜范叔寒

bù zhī tiān xià shì  
不知天下士

yóu zuò bù yī kàn  
犹作布衣看

なお ほう ぞう あ  
尚お てい袍の贈有り

まさはんしゆくにかん范叔あわの寒を憐れむなるべし

てんか し し  
天下の士たるを知らず

な ふい かん  
猶お布衣の看をなす

bān jié yú wáng wéi  
班婕妤 王维

guài lái zhuāng gé bì  
怪来妆阁闭

cháo xià bù xiāng yíng  
朝下不相迎

zǒng xiàng chūn yuán lǐ  
总向春园里

huā jiān xiào yǔ shēng  
花间笑语声

あや きた しょうかくと  
怪しみ来る 妆 閣閉じ

ちょう くだ あいむか  
朝より下るも相迎えざるを

す しゅんえん うち むか  
総べて春園の裏に向う

か かんしょう ご こえ  
花間笑語の声

xún yǐn zhě bú yù jiǎ dǎo  
寻隐者不遇 贾岛

sōng xià wèn tóng zǐ  
松下问童子

yán shī cǎi yào qù  
言师采药去

zhǐ zài cǐ shān zhōng  
只在此山中

yún shēn bù zhī chù  
云深不知处

しょうかどうじ と  
松下童子に問えば

い くすり と さ  
言う師は薬を採りに去ると

ただ こ さんちゅう  
只此の山中にあらんも

くもふか ところ し  
雲深くして処を知らず

shǔ dào hòu qī zhāng yuè  
蜀道后期 张说

kè xīn zhēng rì yuè  
客心 争日月

lái wǎng yù qī chéng  
来往预期程

qiū fēng bù xiāng dài  
秋风不相待

xiān zhì luò yáng chéng  
先至洛阳城

かくしん にちげつ  
客心 日月と争い  
らいおう あらかじ てい き  
来往 預め 程を期す  
しゅうふう あい ま  
秋風 相 待たず  
ま いた らくようじょう  
先ず至る 洛陽城

nán lóu wàng lú zhuàn  
南楼望 庐 僦

qù guó sān bā yuǎn  
去国三巴远

dēng lóu wàn lǐ chūn  
登楼万里春

shāng xīnjiāngshàngkè  
伤心江上客

bú shì gù xiāng rén  
不是故乡人

くに き てさん ぼとお  
国を去って三巴遠く  
ろう のぼ ぼんりはる  
楼に登れば万里春なり  
こころ いた こうじょう きやく  
心を傷ましむ江上の客  
これ こきょう ひと  
是れ故郷の人ならず

shào nián xíng cuī guó fǔ  
少年行 崔国辅

yí què shān hú biān  
遗却珊瑚鞭

bái mǎ jiāo bù xíng  
白马骄不行

zhāng tái zhé yáng liǔ  
章台折杨柳

chūn rì lù páng qíng  
春日路旁情

い きやく さん ご むち  
遺却す珊瑚の鞭  
はく ぼ おご い  
白馬驕りて行かず  
しょうだいようりゅう お  
章台楊柳を折る  
しゅんじつろ ぼう じょう  
春日路傍の情

bié dòng dà gāo shì  
别董大 高适

shí lǐ huáng yún bái rì xūn  
十里黄云白日曛

běi fēng chuī yàn xuě fēnfēn  
北风吹雁雪纷纷

mò chóu qián lù wú zhī jǐ  
莫愁前路无知己

tiānxià shéirén bù shí jūn  
天下谁人不识君

じゅうり こううんはくじつくん  
十里の黄雲白日曛じ  
ほくふうかり ふ ゆきふんぶん  
北風雁を吹いて雪紛々たり  
うれう なか ぜんろち き な  
愁うる莫れ 前路知己無きを  
てんかだれひと きみ し  
天下誰人が君を識らざらん

yèshàngshòuxiángchéngwéndí lǐyì  
夜上受降城闻笛 李益

huí lè fēng qián shā sì xuě  
回乐峰前沙似雪

shòu xiáng chéng wài yuè rú shuāng  
受降城外月如霜

bù zhī hé chù chuī lú guǎn  
不知何处吹芦管

yí yè zhēng rén jìn wàng xiāng  
一夜征人尽望乡

かいらくほうぜん すな ゆき に  
回楽峰前 沙 雪に似たり  
じゅこう じょうがい つき しも ごと  
受降 城外 月 霜の如し  
し いず ところ ろかん ふ  
知らず何れの処か蘆管を吹く  
いちや せいじんことごとくきょう のぞ  
一夜 征人尽く郷を望む

sài shàng wén chuī dí gāoshì  
塞上闻吹笛 高适

xuě jìng hú tiān mù mǎ huán  
雪净胡天牧马还

yuè míng qiāng dí xū lóu jiān  
月明羌笛戍楼间

jiè wèn méi huā hé chù luò  
借问梅花何处落

fēng chuī yí yè mǎn guān shān  
风吹一夜满关山

ゆききよ こてん うま ぼく かえ  
雪净く 胡天 馬を牧して還れば  
つき あき きょうてき じゅうろう かん  
月は明らかに羌笛 戍楼の間  
しゃもん ばいか いちや かんざん お  
借問す 梅花いづくよりか落つる  
かぜ ふ いちや かんざん み  
風吹いて一夜関山に満つ

yè yǔ jì běi lǐ shāng yīn  
夜雨寄北 李商隐

jūn wèn guī qī wèi yǒu qī  
君问归期未有期

bā shān yè yǔ zhǎng qiū chí  
巴山夜雨涨秋池

hé dāng gòng jiǎn xī chuāng zhú  
何当共剪西窗烛

què huà bā shān yè yǔ shí  
却话巴山夜雨时

きみ きき と いま きあ  
君は帰期を問うも未だ期有らず  
はざん やう しゅうち みなぎ  
巴山の夜雨 秋池に漲る  
まさ とも せいそう しょく き  
いつか当に共に西窓の燭を剪り  
かえ はざん やう とき はな  
却って巴山 夜雨の時を話すべき

hán shí hán hóng  
寒食 韩翃

chūn chéng wú chù bù fēi huā  
春城无处不飞花

hán shí dōng fēng yù liǔ xiá  
寒食东风御柳斜

rì mù hàn gōng chuán là zhú  
日暮汉宫传蜡烛

qīng yān sàn rù wǔ hóu jiā  
轻烟散入五侯家

しゅんじょう ところ ひか な  
春城 処として飛花ならざるは無し  
かんしょくとうふう ぎよりゆうなな  
寒食東風 御柳斜めなり  
ひく かんきゅう ろうそく つた  
日暮れて漢宮より蠟燭を伝え  
けいえんさん ごこう いえ い  
軽烟散じて五侯の家に入る

## 漢詩かるた読み札原稿

### 参考資料

- 中国古典選 唐詩選 監修 吉川幸次郎  
(朝日新聞社)
- 東洋文庫 蘅塘退士編/目加田誠 訳注  
唐詩三百首(平凡社)
- 漢詩歳時記 渡部英喜著 (新潮選書)
- 新修 墨場必携 山本正一編 (法政大学出版局)